

はじめに

情報社会学会会員の皆様

情報社会学会誌 Vol10, No1 をお届けいたします。

本号では、3本の原著論文、2本の研究ノートを掲載いたします。いずれも、萌芽性、新規性、さらなる研究への期待があり、情報社会学への貢献は大きいと考えます。

原著論文『ソーシャルメディア利用における実効性のあるプライバシーのコントロール』は、Facebook を調査対象としたソーシャルメディアのプライバシーコントロールの有効性に関する研究です。近年、その利用が飛躍的に増大したメディアの利用者保護に関する研究としてその萌芽性は評価できます。興味深い論点を展開し、取り上げた実証分析に対しては説明がなされています。

原著論文『信頼マネジメントにおける情報システム構築の効率化研究－要件定義の成否とステークホルダー間の信頼賦存量の因果関係の考察－』は、複数の要件定義プロジェクトにおけるステークホルダー間の信頼度を、ソーシャルキャピタル視点と社会的不確実性の視点からの聞き取り調査を行い信頼賦存量の計測結果から、要件定義の成否とステークホルダー間の信頼賦存量の因果関係を評価し、要件定義の成否とステークホルダー間の信頼賦存量の関係モデルを創出した研究です。

原著論文『スマートフォン市場における多面プラットフォーム間競争の研究』は、スマートフォン市場におけるメジャーなプラットフォームとして OS 別の競争戦略の研究でモデル化により説明を試みた研究です。

研究ノート『ネットワーク視聴覚コンテンツ受容の脳血流評価と認知的死角－情報脳認知の観測とその予防公衆情報衛生への応用可能性－』は、大変興味深い論点を展開され、取り上げた実証測定に対しては、説得力ある説明が為されています。今後のさらなる研究を期待します。

研究ノート『日米中における越境 EC のビジネスモデル解析の研究』は、日本、米国と中国三ヶ国間の B to C の越境 EC について SWOT 分析を行い、相互の力関係についてビジネスモデルの研究をしたものです。今後、東南アジア諸国の分析に期待します。

多くの研究が投稿され多岐にわたる研究分野の成果が報告されました。今後のさらなる研究の発展に期待します。今後も会員皆様の積極的な研究活動に期待すると同時に情報社会学に関する多彩なご投稿をお待ちしています。

2015年7月25日

情報社会学会
会長・編集委員長
大橋 正和